



イラスト:Maean

現地で加入できる

「保険の選び方」

タイ生活を送るにあたり、「日本の保険だけで大丈夫かな？」という不安を抱いたことはありませんか？ 前回は日本とタイの保険事情の違いなど基本的な情報をお伝えしましたが、今回はタイ国内トップクラスの顧客数を誇るアリアンツアユタヤ社のビムラーダーさんが登場！ 日本人が押さえておくべき保険情報を教えてくださいました。



Allianz Ayudhya
(アリアンツアユタヤ社)
日本人向けサービス担当マネージャー
ビムラーダーさん
日本に留学経験があり、日本語検定1級保持者。在タイ日本人をはじめ保険事情に精通する
www.thaihoken-madoguchi.com/jp

コロナ禍で日本に一時帰国できず、新規で日本の民間保険に入れないからタイで入れる保険を探している」という相談を受けることが増えました。加入のメリットとして細かく考えるときさまなポイントがありますが、大きく分けると以下のよう特徴があります。

支払い手続きがスムーズ

私のようなタイの事情に精通した日本語が話せる現地エージェントがいるので、何かトラブルや事故で保険会社に連絡を取る際、ある程度対外的な手続きを任せることができます。のは大きなメリットの一つ。病院とのやり取り・手続き完了の日

タイで医療保険に入るメリットって？

数や手間をスムーズに済ませることが出来ます。また、後から遡って請求したり多くの書類を用意するといった時にも、状況を説明してもらい、事務処理にかかる負担を軽減しながら自分の納得がいく形で支払い手続きを済ませることが可能です。

病床を確保しやすい

これは、主に新型コロナウイルスの影響が大きいトピックです。日本人や欧米人が利用するタイの私立病院は、医療保険加入者に優先的にコロナ患者の病床を確保しているという現状があり、今後このような対応は変わらないと思います。

保険加入の際は

「種類」にご注意を！

医療保険や生命保険には掛け捨てタイプと貯蓄タイプがあります。また、医療保険が付帯した旅行保険では掛け捨てタイプでも1年ごとに契約更新できるものもあります。無駄がなく一見便利に見えるこの保険に、意外な落とし穴が……!?

掛け捨てタイプの旅行保険を更新し続けるのはNG?

タイをはじめ、海外生活が長い方でも、掛け捨てタイプの旅行保険を毎年更新し続けている方は多くいらっしゃいます。確かに、旅行保険は審査基準も低く、インターネットを通じてすぐに入りやすいためとても人気があります。長期(1年契約)で更新手続きも簡単にできる旅行保険も発売されているため、中長期型海外移住者の方でも、こちらの保険を毎年更新し続けている方も少なくありません。

補償内容と掛け金のバランスという、掛け捨ての旅行保険は一見とても優れています。そのため、タイに移住して1年以上経過している方でも、わざわざこの旅行保険を解約して、ローカルの医療保険に入り直す必要はないと判断し、続行してしまうケースが多いのです。

Check!

日本人がタイで保険に入る際に注意するポイント

医療保険に関しては、日本とタイでは文化的に異なる点があることに注意してください。例えば、日本ではガンになってからでも入れる保険商品というものがありますがタイにはそれはありません。

旅行保険は病気やケガ後の更新手続きは不可

このように、「一見気軽にメリットばかりに見える旅行保険ですが、1年以上海外生活が続く場合、実は見落としはならない重要な確認ポイントがあります。それは一旦、病気やケガが発生してしまうと「二度と旅行保険を更新できなくなってしまう」こと、そして「ローカルの医療保険に入れなくなる」ことです。

旅行保険とローカルの医療保険では更新に関わる手続きの段階で補償内容が大きく異なります。万が一病気やケガになってしまった場合、タイニングが悪ければ、掛け捨ての旅行保険は次年度の更新手続きをすることができません。これは保険に入っている意味がなくなってしまうのです。次の項目で、医療保険の特徴も見てみましょう。



タイに長く住むと決めている方は貯蓄型の医療保険がおすすめ

更新手続き上のメリットの他に、貯蓄の増額や税制優遇の面でも、貯蓄型の医療保険に入るメリットがあります。所得税に還付金は所得金額に応じて額面が変更されますが、おおよその金額として年間10万Bの保険に入っていた場合、約25000〜2万Bの節税ができます。タイに就労ビザで入国している方は早めに検討した方がメリットも大きくなります。将来を見据えながら、今いるタイの生活もより充実させたい方の強い味方になってくれます。

その疑問にお答え!

タイの保険選び Q&A

契約前提の対談だけでなく、タイの民間保険に加入するかどうか迷い、ピムラダーさんに相談する人も多いのだとか。そのお悩みの一部をご紹介します!

今、タイで保険に入ろうか迷っています。やはり、日本人には日本の保険の方がいいのでしょうか?

日 本に住んでいる条件でということなら、それはもちろん日本の保険に加入の方がメリットが大きいです。日本には、病気になってからでも加入できる保険もありますね。けれど今はコロナ禍で気軽に日本に行けないため、病気や事故が起きる前に、タイで加入できる民間保険を探すことをおすすめします。



タイの医療保険、予算相場はいくらぐらいですか?

予 算は年間を通して(ひと家族あたり)だいたい2~3万バーツが相場です。10万バーツ以上かける方はファーストクラスという扱いになりますが、そこまで予算をかける人はタイ在住者では珍しいです。タイ人と日本人に売られている保険はほとんど同じで条件審査に制限がありません。療養を続けながら、奥様が保険のことを調べてみると、旅行保険はちょうど更新月を過ぎ、途切れている状態でした。慌ててい



タイのコロナ保険について教えてください

今 日本で加入できる「コロナ保険」に入って、タイに入国してくる人も増えていますね。コロナ禍も2年以上が経過し、タイでもさまざまな特化型の商品が出回りましたが、現在重症化しない限り保証されないパターンがほとんどで、コロナ特化型の保険が適用される審査が厳しくなっているというのが現状です。タイに来られたばかりの方は、コロナに限らず、風邪や下痢など日常的な病気にかかりやすいということの方を考慮し、まずは通常の医療保険をご検討いただきたいです。



新型コロナウイルス感染により、保険への意識が高まっている現在。専門的な知識を持つ保険会社に相談してみるのも備えの一つ

Recommended! 日本人に売れ筋の医療保険のトレンドって?

日 系資本保険と外資系タイ法人医療保険を比べると、現在の保険商品のトレンドとしては、タイ法人外資系がコストパフォーマンスが若干高いようです。タイで医療保険を検討する方は、現地採用や個人事業主として会社経営をされている方がほとんどで、特に最近では家族で保険に入る方が多いです。駐在でこちらに来ている方でも、会社からあてがわれている保険内容では不安だということで新たに保険加入を検討される方もいます。

タイで初めて健康診断を受けに行くのですが、先に保険に入った方がいいですか?

来 タイ間もない現地採用の方は、多くの会社で6ヶ月以内の健康診断が義務付けられていますが、できれば診断前に医療保険に加入するのが賢明です。同じ保険会社でも病院が違えば手続きやシステムが異なる場合もあるのでしっかりとご確認ください。

アリアンツ・アユタヤでは日本人でご相談にみえる80%以上の方が「医療保険」のお問い合わせです。コロナ禍の影響もありますが、ここ10年くらいのスパンでも、日本人の方々の保険(備え)に対する関心は年々上がってきているように感じます。弊社の保険の種類には、生命保険・医療保険・積立保険・年金保険・生涯保険があります。いずれの保険も、0~70歳未満まで新規で加入でき、69~85歳まで更新可能です。お気軽にお問い合わせください。

海外生活が長いご夫婦が見舞われた 保険の落とし穴

海外移住、結婚、お子様の誕生など、ライフステージの変化によってアクシデントも重なります。ここでは在タイ歴4年、5歳のお子さんがいるAさんご夫婦の体験談を一つの例としてご紹介しましょう。



世界を股にかけて活躍していたご主人が…

Aさん…自営業(43歳)
奥さま(30歳)
Cくん(5歳)
※年齢は保険のご相談に
みえた2017年当時

あとで後悔
しないために

Check!

定期的な保険を見直しましょう

タイに1年以上住むことが決まった時、あとで後悔しないために定期的に保険を見直しましょう。また、結婚したり家族が増えた時も医療保険を見直すベストタイミングです。特に、家計を支える側の方は医療保険や生命保険、死亡保険に対応したプランに加入することが家族や周囲の安心に繋がります。

一部のタイ人にとっては、保険に馴染みがないと感じる人もおり、保険に対する基本的な知識がなかったり、ネガティブな印象を抱いている人もいます。タイ人のパートナーを持つ際には、特によく話し合っておき、積極的に医療保険のプランを立てましょう。

変わりつつある
タイの保険事情

心の安心材料でもある保険ですが、日本とタイその他諸外国を頻りに行き来できていた頃と、現在のように移動がままならないコロナ禍においては、保険に対する事情やとらえ方も変わってきています。

「万が一の心配」というのも、旅行や移動、事故といった対外的なトラブルより、もっとパーソナルな健康の心配へとシフトしているからです。こういった時代は、仕事や生活の中心になる国の保険に入ることがベストチョイス。より健康に留意することが意識づけられ、ご家族やご自身の心身を守ることに繋がります。

Aさんはタイに来る前も海外生活が長く、30代のころから諸外国に赴任しバリバリ仕事をこなしてきました。タイに住み始め、仕事も軌道にのってきたタイミングで縁あって結婚。お子さんにも恵まれ順風満帆でした。結婚当初、保険はAさんの独身時代から契約していた旅行保険を更新し続けることにして、奥様もそれに同意し、特に契約内容を見直しませんでした。Aさんは毎年の保険の更新を欠かさず行えば問題がないと思っていました。

いろいろな関係各所に連絡して、新規でタイローカルの医療保険に入れないかみたところ、外国人ですでに疾患を抱えているAさんが新規で入れる保険は一切ありませんでした。ずっと契約していた旅行保険も、掛け捨てなのでお金が戻ってこないばかりか、更新することもできません。やむなくAさんは実費でタイの医療を受けることとなりました。貯金がどんどん減っていき、奥様は途方に暮れます。

専業主婦だった奥様は実家の助けを借りながら、新しく仕事を始めることにしました。ご主人のAさんが命を取り留め、療養を続けられているのは何よりですが、医療費がかさむ一方なのが悩みとのこと。今後、気をつけたい点を以下にまとめました。